

收耕述
山平

初學經濟論

卷一

福州第一師範學校
(學校圖書)

登錄號	第	號
分類號	第	號
冊數	3	冊
冊次	1	冊
冊號	25416	冊
冊號	879.1	冊

T1A1

23

Ma 33

圖書 田圖書 週



a 1 3 8 0 3 2 3 0 0 7 a

福岡教育大学蔵書

牧山利平

初學經濟論

全三冊

明治十年九月新刊

初學經濟論

例言

一世人動モスレバ輒謂フ、經濟學ノ教フル所ハ、
專ラ貨財ヲ積ミ、富業ヲ致シ、且以テ一身ノ利
ヲ圖ルニ在リト、夫レ人タル者、唯、一身ノ爲ニ、
積財致富ヲ是レ圖レバ、其弊ヤ、流レテ貪婪ト
爲リ、又以テ吝嗇ト爲ル、既ニ貪吝ナレバ、又終
ニ刻薄ニ陷テ止ム、是レ庸人ノ常ニ免カレザ
ル所ノ通患ナリ、若レ果シテ世俗ノ言ノ如ク
ナレバ、則經濟學ハ、人ヲシテ貪吝刻薄ナラレ

ムルノ學科ナリト謂フニ至ラン、然レモ其實ハ大ニ然ラズ、所謂富トハ、貨財ニ豊カナルノ謂ニ非ズ、凡ソ世間ハ、百物其價值ノ輕重貴賤ニ論ナク、彼此交易シ得ベキモノ、皆是ナリ、又積財トハ、積テ散ゼザルノ謂ニ非ズ、產物ヲ興起センガ爲ニ、先ヅ其財本ヲ節用蓄積スルノ謂ナリ、蓋シ經濟學ノ本旨ハ能ク積ミ、能ク散ジ、又能ク貸ヲ殖シ、且、有無ヲ通シテ、以テ世間ノ便益ヲ進ムルニ在リ、此ニ由テ之ヲ觀レバ、此學タル、豈有益ノ大ナル者ニ非ズヤ、スウセ

ト氏曰ク、經濟學ハ、仁人ノ學ナリト、善哉此言ヤ、夫レ人、苟モ仁愛ノ心深ク、友誼ノ情厚クレテ、衆庶ノ爲ニ利ヲ圖ラント欲セバ、其レ之ヲ忽セニスベカラザルナリ、方今文運大ニ開ケ、該書ノ類、既ニ先輩ノ譯述ヲ經テ、世ニ行ハル、モノ尠ナカラズ、然レモ、經濟ノ學タル、事遠大ニ關カリ、論高尚ニ涉レルヲ以テ、其繁簡宜キヲ得、初學ノ便益ヲ資クル者ニ至テハ、亦甚罕ナリ、是レ予ノ深ク憾ムル所ナリ、此書、本、初學ノ爲ニ著作レタル者ニレテ、實ニ童蒙ヲ誘

披ハルノ善本ナリ、因テ淺見寡聞ヲ揣ラズ、譯
 シテ以テ之ヲ梓ニ上ス、其行文ノ拙劣ナリハ、
 固ヨリ言ヲ待タズト雖、看者幸ニ之ヲ棄テ
 ズ、全篇ヲ熟讀シ、終始ヲ通覽シテ、爲ニ得ル所
 アラバ、予ノ幸何ヲ以テ之ニ過ギン、
 一書中勞銀ノ區別ハ、原序ニ述ベタルガ如ク、前
 人未言ハサル新說ニシテ、邦人ノ耳目ニ慣レザ
 ル所ナレバ、或ハ其了解シ難カラシムヲ慮リ
 テ、一二ノ註解ヲ下スト雖、猶未ダ其精詳ヲ
 得ズ、請フ前後ヲ參考シテ知ル所アレ、

一書中ニ散見スル所ノ弗ハ、之ヲ改メテ圓トシ、
 其改メ難キ者ハ、仍原語ヲ存ス、ヤードハ、之ヲ
 三尺ト譯ス、即ニ「ヤード」ハ、六尺、三「ヤード」ハ、九
 尺ナリ、其他權衡ノ名モ、亦宜キニ隨テ和名ニ
 改ム、是レ此等ノ名稱ハ、特ニ類例ヲ設クル者
 ニシテ、分寸毫釐ノ差ナキヲ要ス、キニ非ザ
 レバナリ、又「レルリ」ング「ラ」ンク等ノ下ニ分
 註シテ、我幾許ニ當ルトナス者モ、亦其大概ヲ
 示スノミ、

一括弧ノ間第何章ヲ見ルハ、一ニ原書ニ

從フ者ナリ、書中往々煩雜ヲ厭フベキ所アレ
ド、敢テ私ニ之ヲ取舍セズ、又分註ノ中〔原〕ノ字
ヲ冠スル者ハ、原註ニ關カリ、〔按〕ト書スルハ予
ガ鄙見ニ係ハル、又我邦民俗ニ解シ難キ所ノ
言語ハ、往々之ヲ註解スト雖モ、其簡明ナル者
ニ至テハ、別ニ註文ヲ加ヘバト云フ、

明治十年九月

譯者 識

原序

此書ハ、本題ニ示スガ如ク、初學ノ經濟書ニシテ、
專ラ幼童入學ノ階梯タルニ過ギズ、我輩此書ヲ
著ス所以ノ意ハ、是レ我國ノ普通學校ニ於テ、此
ヲ以テ其教本トナサンコトヲ冀フニ在ルノミ、從
來普通學校ニ於テ、經濟學ヲ教フルノ年月ハ、一
期若クハ二期ニ踰ヘズ、然ルニ、通常ノ教本ハ、多
クハ簡編浩博ニシテ、其學期ノ間、之ヲ教フルニ
匆々一過スト雖モ、猶ホ其盡シ難キヲ奈何セシ、
今此書ノ如キハ則然ラズ、能ク他ノ日課ヲ妨グ

ルナクシテ、且ツ其終始ヲ全クスルヲ得ベシ、
嘗テ某氏アリ、數年ノ間、經濟學ヲ幼童婦女ニ傳
ヘテ、教導ニ練達セシ後、一書ヲ著シテ言ヘラク、
此學ヲ兒輩ニ教フルニハ、釋義ト題言トヲ以テ
スルニ若カズト、此書ハ、即チ其言ニ從ヒテ案ヲ
立ツルナリ、而シテ此書ハ專ラ此學ヲシテ實行
ニ適セシモノナリト主トシ、殊ニ結社ノ條ニ至リ
テハ、我輩ノ英吉利及ビ日耳曼ニ於テ、親シク實
驗シタル所ヲ舉ゲタリ、願クハ獨學校ノ幼童ノ
ミナラズ、苟モ此學ニ志アル者、皆能ク之ヲ熟讀

セバ、其裨益スル所大ニ見ルベキ者アラントス
抑、我輩此書ヲ著スニ當リテヤ、歐米各國ニ於テ、
其標準トスル所ノ經濟書ハ、泛ク之ヲ參考シ、且
ツ諸家ノ一定シタル確論ハ、簡約ナル語ヲ用井
テ之ヲ詳解セリ、獨リ實算勞銀元手ト可當勞銀
元手トノ區別ニ至リテハ、是レ全ク我輩ノ意見
ニ出タル新說ニシテ、未ダ曾チ前人ノ言ハザル
所ナリ、蓋シ此說タル、勞銀ニ係ル所ノ紛論異說
ヲシテ一ニ歸セシムルニ足ルベシ、其他ハ一切
從前ノ舊論ヲ取り、其辭ヲ新タニシテ、書載シタ

ルニ過ギズ、往々ハシカゴトリビシ新聞紙ノ論

説ヲ引用シ、僅ニ數語ヲ取捨シテ、其全文ヲ書載スルモノアリ、此書ヲ兒童ニ授クルニ、教師生徒ヲシテ、必ズ釋義ト每章ノ題言トヲ背誦セシムベシ、然レモ、其暗記スベキハ、獨リ此二事ニ止マリ、其餘本文ノ如キハ、一々之ヲ詳記スルニ及バズ、生徒ヲシテ、自ラ類例ヲ舉ゲ、或ハ其證據ヲ引テ、意義ヲ解説セシムベシ、是レ生徒ノ能ク其事ヲ解得スルト否トヲ試ミルハ、其レヲシテ自ラ新タニ例證ヲ設ケテ、之ヲ講セシムルノ勝レル

ニ若カザレバナリ、此事我輩多年ノ經驗中竊カニ得タル所ナルガ故ニ、敢テ一言ヲ附シテ世ノ教師ニ告グト云フ、

亞米利加合衆國シカゴ府千八百七十五年六月

アルフレッド・ビーグソン

ガヨニ・ヂエー、レロル

同識

初學經濟論總目錄

卷一

- | | |
|------|-----------------|
| 釋義第一 | 經濟學ノ義ヲ釋ク |
| 釋義第二 | 富ノ義ヲ釋ク |
| 釋義第三 | 物貨ノ義ヲ釋ク |
| 釋義第四 | 財本ノ義ヲ釋ク |
| 第一章 | 富ヲ造リ出ス爲メノ三要件ノ事 |
| 第二章 | 自然力ノ富ナルト否トノ事 |
| 釋義第五 | 固定、流通ナルニ財本ノ義ヲ釋ク |

第三章

固定或ハ流通ノ財本ヲ要スル事

第四章

財本ハ隨テ費セバ隨テ復スル事

第五章

財本ハ勞動ヲ限定スル事

釋義第六

需要ノ義ヲ釋ク

釋義第七

供給ノ義ヲ釋ク

第六章

需要供給ニ由テ物價高低スル事

第七章

物價ノ平價ニ至ル事

釋義第八

有用ト無用ノ消費區別ヲ釋ク

第八章

有用ノ消費ハ勞動ニ利アル事

第九章

無用ノ消費ハ勞動ニ害アル事

第十章

分業ノ事

釋義第九

實算ト可當ノ勞銀區別ヲ釋ク

第十一章

可當勞銀元手ノ増減ノ事

第十二章

實算勞銀元手ノ増減ノ事

第十三章

職業ニ由テ勞銀ニ高低アル事

第十四章

勞銀ノ平均額ヲ得ル事

第十五章

勞銀ノ高低ヲ辨識スル事

第十六章

勞銀騰貴ノ事

第十七章 勞動ヲ省クベキ機械ノ事

第十八章 高勞銀間、大利潤ヲ得ル事

釋義第十 傭工ノ同黨

釋義第十一 雇主ノ連合

第十九章 傭工ノ同黨害アル事

第二十章 雇主ト傭工ノ論爭ヲ中裁スル事

第二十一章 會社結立ノ事

第二十二章 成業同社質本ヲ用井ル良法ノ事

卷三

第二十三章 造出ノ富ヲ三分スル事

第二十四章 富ハ時アリテ三分、時アリテ二分

時アリテ一人之ヲ領有スル事

第二十五章 地代、利潤及ビ勞銀ノ關係ノ事

釋義第十二 價格ノ義ヲ釋ク

釋義第十三 代價ノ義ヲ釋ク

第二十六章 價格ノ一般ニ高低ヒザル事

第二十七章 代價ノ一般ニ高低スル事

第二十八章 價格ハ造出ノ元費ニ基ク事

第二十九章 至當ノ賣買ハ彼此ニ利アル事

第三十章

物ト物トノ交易不便ノ事

第三十一章

貨幣ハ交易ノ媒助タル事

第三十二章

貨幣ハ價格ノ度トナル事

第三十三章

通用貨幣ハ物貨ニ等シキ事

第三十四章

金銀ハ貨幣ノ用ニ適スル事

第三十五章

換ハ難キ貨幣ノ害ナル事

第三十六章

惡貨幣ハ良貨幣ヲ退ゾクル事

第三十七章

貸借ノ貨幣ハ財本ニアラザル事

第三十八章

金融壅塞ノ事

第三十九章

金融壅塞ヲ回復スベキ事

釋義第十四

租稅ノ義ヲ釋ク

釋義第十五

海關稅ノ義ヲ釋ク

釋義第十六

稅則ノ義ヲ釋ク

第四十章

稅則ハ專ラ國費稅ヲ施行スベキ

事

初學經濟論卷一

牧山耕平 譯

釋義第一 經濟學ハ富ヲ造出シ之ヲ分配シ及
ビ之ヲ交易スル法ヲ教フル爲ハハ學問ナリ
凡ソ天下ノ事物ニハ各其法ト云フモノアリ
法ニ二種アリ、一ヲ人法ト曰ヒ、一ヲ天法ト曰
フ、人法トハ人造ノ法ニシテ、天法トハ天然ノ
法ナリ、譬ヘバ、學校ニテ幼童ヲ教ル爲ノニ設

ケタル法ハ是レ人法ニシテ、幼童ノ漸次ニ生長シテ、一個ノ男子若クハ女子トナリ、後又漸次ニ老衰シテ、終ニ死スルガ如キハ是レ天法ナリ、平葉ノ樹上ヨリ落ち、地球ノ日ヲ繞リテ轉スル如キハ、是レ亦天法ノ然ラシムル所ナリ、今此書謂フ所ノ富ヲ造出シ、之ヲ分配シ、及ビ之ヲ交易スルノ法ハ、此二法相交ハルト雖モ、其天法ニ屬スル者實ニ多シトス、

釋義第二、富トハ、他物ト交易レ得ベキ物總テ、是ナリ、

人生必要ノ物ニシテ富ニ非ル物多シ、空氣ハ、天下ノ最モ必要ナル物ナリ、若シ空氣ナケレバ人立ドコロニ死スベシ、水モ亦甚ダ必要ナル物ナリ、然レモ、空氣ト水トハ富ト稱スルヲ得ズ、何トナレバ、人々物ヲ以テ之ト交易スルヲ要セザレバナリ、然リト雖モ、此二物モ時アリテハ亦富トナルヲアリ、譬ハバ、人ノ脉氣、鐘水底ニ沈ミタル物品ヲ拾取シ、或ハ水底ニテ工事ヲナス為メニ用サレル器械ナリ、中ニ在ル時、其呼吸スベキ空氣ヲ機甬ヨリ送下セシメバ、之ガ爲メニ多少酬フル所ナキ能ハズ、

又沙漠中ニ於テハ、一瓶ノ水モ其價頗ル貴ト
キコトアリ、又時トシテ、水車ヲ旋ラス爲メニ
流水ヲ使用スベキ權利ヲ得ントテ、之ガ報酬
ヲ爲スコトアリ、是等ノ事情ニ於テハ、空氣及
ビ水ハ富ナリ、何トナレバ、人々物ヲ以テ之ト
交易スレバナリ、
物ノ富ナルト否トヲ知ラント欲セバ、先ヅ其
物ヲ以テ、他物ニ交易スルヲ得ベキト否トヲ
考フベシ、他物ニ交易シ得ベキ物ハ、總テ是レ
富ナリ、

衣服、家屋、家具、貨幣、穀物、煉瓦、金剛石、等ハ富ニ
シテ、家具製造ノ技能、醫師ノ練熟等モ亦富ナ
リ、

釋義第三、物、貨トハ、形體ヲ具ヘタル富ナリ、

上文ニ列載シタル諸物ハ、均シク富ナレバ、此
中ニ物貨ト稱スベキモノアリ、又然ラザルモ
ノアリ、

衣服、家屋、家具、貨幣、穀物、煉瓦、金剛石、ハ物貨ナ
リ、何トナレバ、是等ノ物ハ、手ニ觸レ眼ニ見ル
ベキ形體ヲ具ヘタルバナリ、

家具製造ノ技能、醫師ノ練熟ハ、無形ニシテ觸知スベカラズ、故ニ此等ハ富ナリト雖モ、物貨ニ非ズ、

釋義第四 財本トハ、節用蓄積シ、且ツ產物ヲ造リ、出ス爲メニ用井ル所ノ富ナリ、財本トハ、先ツ節用蓄積シ、然レテ後チ、產物ヲ造リ出ス爲メニ用井ル所ノ富ナリ、此語最モ牢記セザル可カラズ、土地ハ、富ナリト雖モ財本ニ非ズ、何トナレバ、土地ハ、收穫ノ爲メニ人等ヲ用井レバ、節用蓄積シタル者ニ非ザレバ

ナリ、又貨幣十萬圓ヲ有チテ、之ヲ櫃中ニ鎖閉スレバ、是レ富ナリト雖モ、財本ニハ非ズ、何トナレバ、縱令節用蓄積シタルモノナリト雖モ、未ダ他ノ富ヲ造リ出スニ用井ザレバナリ、工人ノ食物ハ財本ナリ、其用井ル所ノ器具モ亦財本ナリ、工人ノ勞銀ニ供スル貨幣モ亦然リトス、土地ハ、空氣、水力、重力、等ノ如ク、亦一ノ自然力ナリ、自然力ノ中ニテ、土地ハ、最モ必要ナル者トス、

第一章

自然カ、財本及ビ勞動ハ、富ヲ造
リ出ス爲メハ、三要件ナリトス、

食用ノ蔬菜ヲ造リ出スニ當リテハ、第一、自然カ
ナカル可カラズ、自然カトハ何ゾ、蔬菜ヲ産ス
ベキ土地即チ是ナリ、第二、土地ヲ開キ、藩籬ヲ圍
ミ土塊ヲ鋤キ、種子ヲ蒔ユ、及ビ其作物ヲ收穫ス
ルノ勞動ナカル可カラズ、加フルニ、小麥ノ如キ
ハ、收穫シテ後之ヲ磨シ、又之ヲ調製スルノ勞動
ヲカル可カラズ、第三、耕作ニ用ヰル器具、播蒔ニ

供スル種子、及ビ衣食等ノ如キ財本ナカル可カ
ラズ、

又爰ニ人アリテ、其子ヲシテ醫術ヲ學バシムレ
バ、即チ醫術ノ富釋義第二ニ
参考スベシヲ造リ出ス者ニシ

テ、之ヲ造ルニモ亦自然カヲ要スベク、而シテ其
貴重ナルハ殊ニ土地ニアリトス、何トナレバ、其
子ノ醫術練熟スルニ至ルマデ、其身ヲ養フ所ノ
食物ハ、多クハ土地ヨリ出レバナリ、又修業ノ間、
費ス所ノ衣食及ビ家税等ト、其師ニ酬テ謝銀
ハ財本ニシテ、其襁褓ノ中ニ在リシ時ヨリ、愛養

教育ヲ忽ニセザル者ハ、是レ勞動ナリ、
又亞麻布ヲ造リ出スニハ、數類ノ自然力相會ス
ルヲアリ、數類ノ自然カトハ何ゾヤ、曰ク、地トカ
ナリ、蓋シ地ハ、製造所ノ設アリ、且ツ亞麻ヲ産ス
ルノ土地ニシテ、其力ハ、即チ風車ヲ轉ズル所ノ
風、水車ヲ運ラス所ノ水、或ハ甌水ヲ蒸汽ニ化セ
シムル所ノ熱等是ナリ、（釋風ハ空氣ノ謂ニテ、既
ニ釋義ニ於テ示スガ如
ク、自然カノ一ニシテ、水
熱ノニツモ亦然リトス、其初ニ當リテ亞麻ヲ培
養シ、後ニ及ビテ之ヲ紡績シ、之ヲ織成シ、若クハ
製造所ヲ建設シ、機械ヲ發明シ、或ハ職事ヲ管理
シ、ト

スル等ノ事ハ、即チ其勞動ニシテ、製造所、機械等
ヲ設ケタル費額ト、工人ニ與ヘタル勞銀、及ビ費
用シタル亞麻トハ、是レ其財本ナリトス、
上ニ述ブル所ノ者、其造出ノ趣向ニ於テ、各、相異
ナレバ、自然力、財本、勞動ノ三ツノ者アリテ、始メ
テ富ヲ造リ出スヲ得、未タ此三者ノ中一ヲ缺テ、
之ヲ造出スルノ例アルヲ見ズ、爰ニ一ノ法則アリ、
之ヲ百事ニ徴シテ、一毫モ違フ所ナケレバ、取
リテ真ノ法則ト爲スベシ、即チ此三者結合ノ如
キ是ナリ、

是故ニ、自然カ、財本、勞動ハ、富ヲ造リ出ス爲ハハ、
三要件ナリトスト云フ、

第二章

自然カハ、其量限アリハ之ヲ富ト
謂ヒ、限ナキ者ハ之ヲ富ト謂ハズ、

凡ソ物ニ於テ、其分量ノ限界ナケレバ、人得テ恣
ニ之ヲ用井ルベシ、譬ヘバ、人ノ空氣ニ於ル、皆各
自由ニ之ヲ呼吸スルヲ得故ニ物ヲ以テ空氣ト
交易スル者ナシ、然レモ、若シ空氣ヲ主管スル者
アリテ、他人ヲシテ自由ニ呼吸スルヲ得ガラシ

メバ、人各、其生命ヲ全クセンガ爲メ、物ヲ以テ空
氣ト交易スベシ、故ニ若シ其分量ニ限界アレバ、
空氣モ亦富ナルベシ、

人口多キ國土ニ於テハ、土地ノ經界正シクシテ、
尺寸ノ地モ本主アラザルハナシ、故ニ尺寸ノ地
モ得テ之ヲ恣ニスベカラズ、夫レ土地ハ、富ナレ
バ、尺寸ノ地ト雖モ、物ヲ以テ之ト易ヘザルベカ
ラズ、然レモ、人跡絶エテ稀ナル土地ニ在リテハ、
固ヨリ土地ノ量限リナシ、此ノ如キ地方ニハ、人
之ヲ要求スルヨリモ、更ニ廣大ナル土地アリ、又

北極地方ノ如キハ、彼此相類似セル島嶼其數ヲ知ラズ、若シ人アリテ其一ヲ有テ、之ヲ他物ト易ヘント欲スルモ得ベカラズ、何トナレバ、其近方ニ於テ、同一ノ島嶼ヲ領セント欲スル者ハ、一錢ヲモ費サズシテ、之ヲ得ベケレバナリ、水ノ物タル、常ニ其分量限リナシト雖モ、若シ此ニ限界アレバ、水モ亦富ナルコト、前ニ舉ゲタル二例ヲ以テ見ルベシ、（釋義第二ヲ見ヨ）此ノ如キ時ニ在リテハ、水モ亦他物ト換フルヲ得、故ニ其量限リアレバ亦富タルヲ得ルナリ、

是故ニ、自然カニ其量限アレバ、之ヲ富ト謂ヒ、限ナキ者ハ之ヲ富ト謂ハズト云ス、

釋義第五、財本ハ、分チテ、固定、流通ハ二ツトナス、

固定財本トハ、家屋、機械、器具、水竇、溝渠、鐵道等ノ如キ者是ナリ、流通財本トハ、勞銀ヲ償ヒ或ハ原材料ヲ買辦（買辦）亞麻布ヲ織ルニ亞麻ヲ買フカ如シ（如シ）スルガ如キ財本是ナリ、

固定財本ハ、其用ニ堪ル久シ、即チ此財本ニ由リテ物貨ヲ製造スレバ、年々唯、僅ニ其一部

分ヲ費スノミ、譬ヘバ、綿布ノ製造家アリテ、製造所、機械等ヲ備フレバ、此ニ由リテ數十萬尺ノ綿布ヲ織製レ得ベシ、是ニ至リテ、其固定財本ハ費スベケレバ、之ヲ數十萬尺ノ綿布ニ配當スレバ、其一尺毎ニ費エタル分ハ僅少ナルベシ、

流通財本ハ、一タビ用井レバ消シ盡スベシ、譬ヘバ、三尺ノ綿布ヲ織レバ、其用ニ應ズベキ所ノ木綿ト、紡績スル所ノ勞動トハ、一旦ニ之ヲ消盡ス、故ニ其一片ノ綿布ヲ賣ルニ當リテハ、

木綿ノ費銀、及ヒ紡績ノ勞動ト、其製造ノ爲メニ費レタル固定財本ノ一部分トヲ回復シ、且ツ若シ得ベクンバ、之ニ加フルニ少許ノ利潤ヲ以テセザル可カラズ、

是故ニ、物産ヲ造リ出スニ費シタル、流通財本ノ全額ト、固定財本ノ一部分ハ、產物ノ價必ズ相償フベシ、

農夫ノ穀物ヲ賣リテ其利潤ヲ得ルニハ、必ズ種子ノ費銀ト、耕耨、播蒔及ビ刈收ノ勞動ト、其他藩籬、水竇等ノ諸費ヲ合セテ之ヲ回復シ、且

ツ其餘得ル所ナカル可カラズ、

第三章

財本ハ其用法ニ由リテ、或ハ多クハ流通ヲ要シ、或ハ多クハ固定ヲ要ス、

爰ニ襯衣ノ製造家アリテ、許多ノ婦人ヲ雇ヒ、各其家ニ於テ之ヲ裁縫セシム、然ル時ハ其財本ハ悉ク流通財本ニシテ、勞銀ヲ與ヘ、鈕釦、絲布等ヲ買フノ外、幾ンド別ニ財本ヲ要セズ、然レモ、若シ鉅大ナル製造所ヲ築キテ、機械ヲ備ヘ以テ工人ヲ雇役スレバ、其財本多クハ固定トナル、

鐵道會社ノ財本ハ、多クハ固定ナリ、即チ鐵道ノ

横木、鐵條

汽車ノ軌道ニ敷ク所ノ鐵條皆同ジ

汽車

製車所及ビ停車場等是ナリ、又石炭商賣ハ其財

本ノ固定トナル者甚ダ少ナレ、唯、僅カニ石炭ノ

貯場、數輛ノ貨車及ビ狹小ナル鋪店ノミニシテ、

其他專ラ用ヰル所ノ者ハ、礦山ヨリ石炭ヲ購賣

シ、之ヲ運輸シ、及ビ傭夫ニ酬フル等ノ費銀ナリ、

此外何レノ職業ニ拘ハラズ、總テ上ノ如クニ之

ヲ分疏スレバ、其用ヰル所ノ財本ハ、固定流通ノ

二ツニ本ヅカザルハナレ、

是故ニ、財本ハ、其用法ニ由リテ、或ハ多ク、固定ラ、要、或ハ多ク、流通ヲ要スト云ス

第四章

財本ハ、隨ヒテ費セ

バ、隨ヒテ復スベシ、

既ニ釋義第四ニ述ベレガ如ク、財本ノ財本タルハ、必ズ之ヲ用井ルニ在リ、若シ之ヲ用井ザレバ、財本タルヲ得ズ、然レモ、既ニ之ヲ用井レバ、其物必ズ盡滅スルモノナリトス、此理ハ固定、流通ノ二財本ニ於テ相異ナルヲナシ、譬ヘバ、三尺ノ綿

布ヲ製造スレバ、其用ニ應ジタル木綿ハ、復々其形狀ヲ存セズ、其工人ノ食ヒタル食物モ亦然リ、是レ木綿ト食物ハ、流通財本ニシテ、其用ニ應ジタルハ、其物ノ盡滅シタルナリ、又固定財本タル家屋ハ、其用一タビニテ費盡セズト雖、亦漸ヲ以テ破損ス、故ニ之ヲ用井レバ、絶エズ修理ヲ加ヘザル可カラズ、修理ヲ加ヘザレバ、其末遂ニ壊敗スベシ、

又耒耜ヲ用井テ田圃ヲ掘レバ、多ク番薯ヲ採リ得ベシ、夫レ耒耜ハ、固定財本クレバ、之ヲ用井ル

毎ニ、唯僅ニ消費スル所アリテ、蓄蓄ハ、流通財本
タレハ、一タビ之ヲ用井ルコアレバ、全ク費盡ス、
故ニ固定財本ハ、之ヲ用井ル毎ニ僅ニ費ニ、流通
財本ハ、用井ル毎ニ全ク費ル者ニレテ、此ニ財本
ノ相異ナル所ハ、唯、其消費ノ緩急ニアルノミ、
爰ニ三尺ノ綿布アリ、其價製造ニ費シタル財本
ヨリモ低ケレバ、財本ハ、製造以前ヨリモ減少シ、
若シ或ハ、其價貴トケレバ、製造ノ費銀ハ、獨リ舊
ニ復セルノミナラズレテ、財本ハ、更ニ増益ヲ加
フベシ、

夫レ財本ハ、產物ヲ造リ出ス爲メニ用井、釋義第
四ヲ見ヨ、而レテ之ヲ用井レバ、隨ヒテ盡滅スル
者ナリトスルトキハ、之ヲ保存スルノ法、獨リ其
盡滅スルニ從ヒ、少クモ之ヲ回復スルニ足ルベ
キ產物ヲ造リ出スニ在ルヲ明ナリ、
是故ニ、財本ハ、隨ヒテ費セバ、隨ヒテ復スベシト
云フ、

第五章

財本ハ、勞動ヲ限定ス、

富ヲ造リ出スニハ、必ズ財本、勞動、ニツナカル

可カラズ(第一章ヲ見ヨ)故ニ勞動ヲ要スルニハ、
必ズ財本ヲ要スベクレテ、財本ヲ用ヰル、
ケレバ、勞動ヲ役ムル、愈多キヲ得ベシ、即チ財
本ト勞動ノニツノ者相備ハルニ非サレバ、獨リ
財本ヲ恃ミテ富ヲ造リ出ス可カラズ、

然ルニ、財本勞動ヲ限定スト云ヒ、勞動、財本ヲ限
定スト謂ハザル者ハ、抑、何ゾヤ、蓋レ財主タル者
產物ヲ造リ出スニハ、先ヅ製造所、機械、器具、及ビ
其產物ノ原材ヲ備ヘ、而シテ後勞動ヲ要スル、
其常ニシテ、此ニ先チテ更ニ勞動ヲ要セザレバ

ナリ、即チ財本ノ用ハ第一ニシテ、勞動ハ之ニ次
ギ、先ヅ財本ヲ用ヰルニ非ズレバ、勞動ハ之ガ爲
メニ役セラレズ、是故ニ、財本ハ、勞動ノ主ニシテ、
勞動ハ、之ガ使役ヲ受クル者ナリ、

又財本勞動ヲ使役スルノ後、其作工全キニ至ル
マデハ、財本以テ之ニ支給セザルヲ得ズ、即チ財
主、傭工ノ造リ出シタル產物ヲ賣リ、而シテ其利
潤ヲ得ルニ至ルマデハ、其傭工ノ要用ナリトス
ル所ノ勞銀、衣、食、居宅、等ヲ以テ、之ニ支給スル者
是ナリ、

譬へバ、寶石ノ製造家ハ、適宜ノ工場ト、必要ノ器具ヲ備へニガ為メニ、先ヅ其財本ヲ費シ、次ニ采飾ニ用ヰル金銀、其他ノ材料ヲ購求シ、而シテ後勞動ヲ使役ス、然レモ、其勞動ノ多寡ハ、必ズ工場ノ廣狹器具ノ多寡、金銀其他材料ノ量數ニ係リ、而シテ工場其他一切ノ準備ハ、其原亦財本ノ額數ニ係ルベシ、加フルニ、財主ハ、其製造ノ間ニ買客ヨリ多少ノ金錢ヲ得ルヲナキモ、其使役スル所ノ工人ニハ、必ズ衣食ヲ支給セザルヲ得ズ、衣食ヲ支給スルニハ、必ズ財本ナキヲ得ズ、○是故

ニ、財本ハ勞動ヲ使役シ、且ツ之ニ支給スル者ナルヲ以テ、財本ハ勞動ヲ限定スト云フ、

釋義第六 需要トハ、現ニ交易スベキ物貨ヲ有ラル者之ヲ以テ其好ム所ハ物貨ヲ買ハント欲スルハ願ナリ、

釋義第七 供給トハ、現ニ有ツ所ハ物貨ヲ以テ之ヲ他人ニ賣ラント欲スルハ願ナリ、

譬へバ、木綿ノ需要ト謂ハ、人之ヲ買ヒ得ベギ所ノ貨幣、或ハ他ノ物品ヲ現有レテ、此ヲ以テ彼ニ換ヘント欲スルヲ云フ、故ニ若レ貨幣

或ハ交易スベキ貨幣ヲ現有セザレバ、其人強
テ木綿ヲ得ント欲スル、此、經濟學ニ於テ之ヲ
論ズレバ、實ニ木綿ヲ需要スル者ニ非ズ、
又木綿ノ供給ト謂ハズ、人木綿ヲ領有シ、而シ
テ其好ム所ノ貨幣、或ハ他ノ物品ト交易シテ、
之ヲ他人ニ讓ラント欲スルヲ云フナリ、

第六章

供給、需要ニ過レバ、其價隨ヒテ低下シ、
需要供給ニ過レバ、其價隨ヒテ騰貴ス、
爰ニ物アリ、其供給ノ多キヲ需要ニ過レバ、之ヲ

商フ者、各、其物貨ノ賣レ難キヲ恐レ、其價ヲ低下
シ、以テ買客ヲ己ノ家ニ招クベレ、同業ノ商估、皆
相競ヒテ此ノ如クヒバ、其物貨ノ通價ハ必ズ低
下スベレ、譬ハバ、幕ヲ需要スル者九人アリテ其
供給ノ品十把アレバ、之ヲ商フ者、各、其一把ノ帶
貨ヲラニテ恐レ、低價ヲ以テ之ヲ賣ルベシ、同
商ノ者、此ノ如ク相競ヘバ、其價益低下シテ止ム、
故ヲ以テ、產物ノ饒多ナルト、價值ノ廉下ナルト
ハ、相倚リテ相離レザルモノナリ、
若シ或ハ、需要ノ多キヲ供給ニ過レバ、買者ハ、其

物ヲバ他人ニ買ヒ盡サレテ、之ヲ己ニ求ムルヲ能ハザランヲ恐レ、他人ヨリモ高價ヲ出シテ、其物ヲ買フベシ、買フ者皆此ノ如クナレバ、其通價ハ騰貴スルニ至ラン、譬ヘバ、馬ヲ買ハント欲スル者五人アリテ、馬四匹アレバ、五人ノ者ハ、各競ヒテ不當ノ價銀ヲ出スベシ、故ニ五人ノ中、最も高ク買フ者ハ、各一頭ヲ求メ得ベシ、是ヲ以テ、產物ノ稀少ナルトハ、猶ホ物貨ノ高價ナルト云フガ如シ、

上ニ述グル所ハ、以テ需要供給ノ第一則ヲ證ス

ベシ、即チ供給需要ニ過レバ、其價隨ヒテ低下シ、需要供給ニ過レバ、其價隨ヒテ騰貴スルヲ知ルベキナリ、

第七章

物ノ需要盛ナレバ、其供給モ亦盛ニシテ、終ニ平價ヲ得ルニ至リテ止ム、

凡ソ物需要ニ遇ヘバ、其財主タル者、財本ヲ費シテ之ヲ供給スベシ、而シテ之ガ爲メニ大ニ利潤ヲ得レバ、他ノ財主モ亦其製造ヲ始ムベシ、此ノ如ク相競フニ至リテハ、其物貨ノ價必ズ低下ス

べし、第六章ヲ見ヨ〕但し、一時臨機ノ賣買ヲ除ク
ノ外、其低下必ズ平價ノ下ニ降ラズ、平價トハ、製
造ノ爲メニ費シタル自然力、財本及ビ勞動ニ酬
フベキ至當ノ價值、即チ是ナリ、若シ此價值ノ外
ニ低下スレバ、製造スル者、皆財本ヲ此ニ用井ル
ヲ止メ、而シテ其製造物ハ隨ヒテ亦減少シ、結
局物貨ノ稀少ナルガ爲メニ、其價復タ騰貴スル
ニ至ルベシ、第六章ヲ見ヨ〕

千八百六十九年ニ當リ、我合衆國ニ於テ自轉車
大ニ行ハリ、幼童壯者トモ之ヲ需要スル、甚ダ

盛ナリシコトアリ、其初ハ需要ノ多キヲ供給ニ
過ギレヲ以テ、其價頗ル貴トカリシガ、其後、供給
ノ隨ヒテ生ズルニヨリテ、價モ亦隨ヒテ低下シ、
後終ニ之ヲ需要スル者ナキニ及ビテ、其製造モ
絶エテ止ミタリ、然レ氏、製造家ニ在リテハ、既ニ
許多ノ製品ヲ有ナレニヨリ、一時至廉ノ價ヲ以
テ之ヲ賣去セシガ、現今ニ在リテハ、自轉車ノ需
要又少シク増殖ス、故ニ至當ノ價ニテ之ヲ購買
スルヲ得ベシ、

古人ノ描キタル圖畫ノ如ク、其個數ノ定限アル

者ハ、幾許ノ財本、勞動ヲ費スル、其供給ヲ増レ得
ベカラズ、故ニ需要盛ナリト雖モ、至當ノ價ニテ
之ヲ供給スルヲ得ズ、然レモ、凡百ノ物、其分量ノ
多寡ニ論ナク、之ヲ供給シ得ベキ者ニ至リテハ、
既ニ上ニ述ベタルガ如シ、是レ需要供給ノ第二
則ナリ、即チ物ノ需要盛ナレバ、其供給モ亦盛ニ
シテ、終ニ平價ヲ得ルニ至リテ止ムト云フ是レ
ナリ、

釋義第八、消費ニ有用ト無用ト別アリ、

凡ソ消費シテ、産物ヲ増加スベキモノハ、即チ

有用ノ消費ナリ、譬ヘバ、勞動スル所ノ工人ニ
シテ、其必要ナル食物ヲ費ス者ハ、有用ノ消費
ナリ、又鐵ヲ鎔解シテ他日ノ用ニ應ズベキ鐵
條ヲ造レバ、其鎔解シタル所ノ鐵ハ、有用ノ消
費ナリ、又磚ヲ用ヰテ田圃ニ水竇ヲ鑿ツモ同
ジク然リトス、若シ或ハ、消費シテ、産物ヲ増加
セザルモノハ、即チ無用ノ消費ナリ、譬ヘバ、嬾
夫ノ費シタル衣服、食物ノ如キ是ナリ、又勞動
スル所ノ工人アリ、毎一日一斤ノ食物ヲ以テ、
要用ナル分量トナセシニ、若シ毎一日一斤半

ヲ費セバ、其餘分ノ半斤ハ無用ノ消費ナリ、或
ハ鐵ヲ鎔シテ空シク之ヲ棄ツレバ、其鐵ハ無
用ニ消費シタルナリ、絹帛天鵝絨等ノ如キハ、
多クハ無用ノ消費ニシテ、煙草モ亦然リトス

第八章

有用ハ消費ハ
勞動ニ利アリ、

有用ノ消費ハ、產物ヲ増加スルノ益アリ、產物ヲ
増加スル者ハ、富ヲ殖スルノ益アリ、而シテ富ヲ
殖スル愈多ケレバ、財本ヲ用ヰル亦愈多シ、財本

ヲ用ヰルヲ愈多ケレバ、之ニ應ズベキ所ノ勞動
モ亦愈多シ、第五章ヲ見ヨ即チ有用ノ消費ハ、勞
動ヲシテ愈多カラシム、

是故ニ、有用ハ消費ハ、勞動ニ利アリト云フ、

第九章

無用ハ消費ハ、
勞動ニ害アリ、

若シ物ヲ消費シテ、產物ヲ増加スルノ益ナケレ
バ、國內ノ富ハ、其消費レタルダケ減ジタルナリ、
譬ヘバ、一邑ニ一千人アリテ、各其要用ナル食料

ノ外更ニ四半斤ノ四分一多キヲ費セバ、其食料ノ無益ニ減ズル總高、毎一日二百五十斤ナリ、又人アリテ食料ノ爲メニ、一年毎ニ二百五十圓ヲ消費シ、其中五分ノ一即チ五十圓ハ不急ノ驕奢ニ屬スルトキ、其人若シ此冗費ヲ省カバ、初メ其五十圓ノ食物ヲ造リタル財本并ニ勞動ハ、之ヲ轉ジテ他ノ物貨ヲ造リ出スニ用井、即チ需要ニ於テ、必要ナル靴履ノ如キ者ヲ造リ得ベシ、又其消費ヲ戒メタル人ハ、毎五十圓ヲ貯蓄シテ、書籍出版ノ爲メニ之ヲ用井レバ、其消費ヲ省キタル

効驗アリテ、要用ナル靴履ト書籍ハ、前日ヨリモ國中ニ多カルベシ、此時ニ當リテ、食物ノ價ハ、猶ホ前日ニ異ナルヲナカルベシ、是レ他ナシ、其需要ニ從ヒテ、供給モ亦減少シタレバナリ、又靴履ト書籍ノ價ハ、前日ヨリモ低下セシナルベシ、是レ亦其供給ノ増加セシニ由リナリ、無用ノ消費未ダ止マザルノ前ニハ、其餘分ニ費セル食物ヲ造リ出スガ爲ニ、勞動ニ費シタル一股ノ財本アリシナリ、其消費ノ止ムニ至リテモ、其財本ハ猶ホ依然トシテ存スレバ、今ハ靴履ヲ造リ出ス

爲メノ財本トナリ、而シテ又更ニ一股ノ財本ヲ
生出セリ、書籍出版ノ財本是ナリ、即チ此消費ノ
未ダ止マザル以前ニハ、勞動ニ充ツベキ財本ハ、
僅ニ一股ナリシガ、其既ニ止ミタルノ後ニ當リ
テハ、更ニ一股ノ財本ヲ増セシナリ、故ニ無用ノ
消費ヲ省略セバ、勞動ヲ利便スル者ナリ、
是故ニ、無用ハ消費ハ、勞動ニ害アリト云ス、

第十章

分業スレバ、勞動ハ、
ハ、効驗更ニ多シ、

爰ニ農夫アリテ、其耕作シタル小麥ヲ收納スル
ヨリ、之ヲ磨車ニ運ビ、之ヲ磨シ、其粉ヲ擔ヒテ都
會ニ到リ、又之ヲ以テ麵包ヲ製シ、且ツ之ヲ荷ヒ
テ市頭ニ販グマデ、皆之ヲ自ラセバ、徒ラニ勞力
ト時日ヲ費スベシ、是レ他ナシ、農夫ハ、獨リ耕作
ノ法ヲ知リ、農具ヲ有スルノミニシテ、磨車ノ用
方、運送ノ方法、又麵包ノ製方等ヲ知ラズ、且ツ其
製造機械ヲ有タザルヲ以テナリ、故ニ農夫ノ勞
動ハ、專ラ農業ニ用ヰルヲ以テ最モ宜シトス、若
シ此農夫、一日ハ農夫トナリ、一日ハ磨匠トナリ、

一日ハ擔夫トナリ、一日ハ烘匠トナリ、又一日ハ行商トナル時ハ、五日間ニシテ得ル所ノ者、僅ニ金五圓ナルベシ、然レモ、若レ其勞動ヲ農業ニ專ラニセバ、此ニ由リテ得ル所ノ者、二三倍ノ多キヲ加ヘン、且ツ農業ヲ專ラニセバ、唯一具ノ農器ヲ備ヘテ餘リアリトス、又日ニ之ヲ使用スルガ爲メニ、其財本ナル農器モ死物タラズ、若シ夫レ然ラズシテ、以上ノ五業ヲ一身ニ兼ル時ハ、五具ノ器械ヲ備ヘザルヲ得ズ、且ツ一業ヲナス間ニ當リテ、他ノ四業ニ於ル器械ハ、毎ニ死物タラザ

ルヲ得ズ、是故ニ、人其業ヲ分テバ、善ク財本ヲ用井、且ツ善ク勞動ヲナレ得ベシ、

此事、一業ノ中ニ於テモ亦然リトス、乃チ經濟學者ノ始祖、アダム・スミスノ説キタル一例ヲ引テ、之ヲ左ニ示スベシ、

蟹眼針製造ノ作工ハ、幾ンド之ヲ十八課ニ分テ、鐵線ヲ引延スヲ以テ一人ノ課業トシ、其線ヲ直ニスルヲ以テ一人ノ課業トシ、第三ノ人ハ之ヲ切り、第四ハ之ヲ尖ラシ、第五ハ上端ニ粒ヲ附スルガ爲メニ其端ヲ研ク、其粒ヲ造ルノ業モ、之ヲ

二課或ハ三課ニ分チ、粒ヲ以テ針ノ上端ニ加フルトモ、其一課ニシテ、針ヲ磨ミ、且ツ之ヲ紙ニ挿スモ亦各、一課ナリ、予曾テ蟹眼針製造所ニ到リテ一覽セシヲアリシガ、此製造所ハ甚ダ寒微ニシテ、唯十名ノ工人ヲ雇役セルヲ以テ、或ハ一人ニシテ二三課ヲ兼ネタル者アリ、且ツ其機械モ十分ニ整備セズ、然レモ、工人勉強シテ其職事ヲナス時ハ、一日ニ蟹眼針十二斤ヲ造リ得ベシ、而シテ其針ハ中等ノ大サニテ、重量一斤毎ニ、其員數四千個餘ナリ、故ニ一人ノ造ル所、其數四萬八

千ノ十分一ナリトセバ、一人毎ニ一日ニ造リタル數四千八百個ナリ、若シ十名ノ工人、其課業ヲ分チテ、習ヒ得シ所ノ長技モナク、各個獨立シテ針ヲ造ラントセバ、一人ニテ一日ニ二十個ノ針ヲ造ルヲ實ニ難カルベク、或ハ一個ヲモ造リ得ベカラズト云ヘリ、

分業スレバ、勞動ノ効驗更ニ多キ所以ノ者ハ、其理五ツアリ、左ノ如シ、

第一、凡ソ工人ハ、何業ニ係ハラズ、數個ノ事ニ當リテ、纔ニ兩三度之ヲナスヨリモ、一事ニ當リ

之ヲ數スレバ大ニ練熟スベシ、譬へバ、鐵工ノ鍛冶ヲナス者、半週間鍛冶ヲナシ、又半週間他ノ職業ヲナスヨリモ、日々其業ニ從事スレバ、大ニ練熟スルヲ得ベシ、

第二、一ノ作エラ止メテ、他ノ職事ニ遷ルトキハ、空シク時間ヲ費シ、業ヲ分テバ、其空費ヲ省クベシ、譬へバ、蟹眼針ヲ造ル時、鐵線ヲ直ニスル者ニシテ、又兼ネテ其線ヲ切ルトキハ、其初ニ當リテ、使用シタル器具ヲ放チテ、他ノ器具ヲ取り、且ツ居坐ヲ轉ズルノ煩アルマシ、此ノ如クナル時

ハ、其間費ス所ノ寸刻モ、一年ノ中ニハ、積リテ數日トナルベシ、

第三、若シ分業ノ法其正ヲ得レバ、終日使用ヒザルノ間具ナカルベシ、其故ハ、前例ニ於ルガ如ク、一人ニシテ二業ヲ兼レバ、鐵線ヲ切ル間、之ヲ直ニスル器具ハ贅物トナリ、二人其エヲ分チテ、各之ヲ專ラニスレバ、二具トモニ常ニ活用スルヲ得ベシ、

第四、業ヲ分ツニ於テハ、其成シ易キ者ハ、之ヲ幼童婦女ニ課シ、其成シ難キ者ハ、之ヲ強壯ノ人

ニ課レ得ベシ、然スレバ、男女ノ別ナク、皆其力ニ
應ジテ使役スルヲ得ベキナリ、
第五、意ヲ數個ノ事業ニ用井ノヨリハ、意ヲ一
事ニ留メテ、新規ノ良法ヲ發明シ易キニ如カズ
是故ニ、總テ職業ハ、其細分ニ過ギテ、却テ傭工ノ
手ニ空閑ヲ生ズルマデハ、勉メテ之ヲ分ツヲ益
アリトス、但傭工ニ在リテハ、分業ノ爲メニ不利
ナルヲニツアリ、其爲ス所、一事ニ止マレバ、倦ミ
テ快適ナラザル其一ナリ、獨リ此末ノ細技ノミ
ニ練熟スルヲ以テ、若シ雇役ヲ廢停セラル、コ

トアレバ、更ニ職ヲ覓ルヲ難キ即チ其ニナリ、然
レ、此ノ如キ小ナル不利ハ、大ニ雇主ノ職業ヲ妨
ガルモノニアラズ、之ヲ其利益ノ大ナルニ比ス
レバ、其相距ルヲ甚ダ遠シトス、
是故ニ、分業スレバ、労働ハ効驗更ニ多シト云フ、
釋義第九、財本ノ中労働ニ酬フベキ部分ハ、之
ヲ名ケテ勞銀元手ト云ス、
勞銀元手ヲ分チテ實算可當ノニツトナス、實
算勞銀元手トハ、勞銀トナシテ現實ニ費用ス
ル財本ナリ、可當勞銀元手トハ、勞銀トナシテ

費用スルモ可ナルモノナリ、我實算勞銀元手ハ、我民俗ニイハ
 ユル賃銀ニ充テタル元手ニシテ、現實傭工ニ
 拂フベキ元手ナリ、又可當勞銀元手ハ、利潤ノ
 中ヨリ取リテ、賃銀ニ當ツ可キ分ナリト知ル
 ベシ、下ノ例ニテ、十一萬圓ヲ以テ可當勞銀元
 手ナリト云フ者ハ、十一萬圓ニ至ルマデハ、賃
 銀ニ當テ、費用ニ得ベキ高ト云フ意ニテ、實
 算ト増加ノ分トヲ合セテ斯クイ
 フナリ、猶十六章ヲ参考スベシ、

譬ヘバ、爰ニ一個ノ製造家アリ、其一歳ノ計算
 ラ立ルニ、勞銀十萬圓ト見込ミ、猶ホ二萬五千
 圓ノ利潤アラシク、財主ノ生計ハ、一萬五千圓
 ニテ事足ラバ、其餘分ノ一萬圓ハ、徒ラニ之ヲ
 貯藏センヨリモ、右ノ十萬圓ニ加ヘテ十一萬

圓ト爲シ、其ニ勞銀ニ費用スルモ支障ナキコ
 トアルベシ、然ルトキハ、實算勞銀元手ハ、十萬
 圓ニシテ、可當勞銀元手ハ、別ニ十萬圓ノ十分
 一ヲ加ヘテ、十一萬圓ト爲スノ類、是ナリ、
 實算勞銀元手ハ、必ず可當勞銀元手ノ上ニ出
 デズ、却テ其數ニ及バザルコト屢コレアリ、故
 ニ傭工タル者、事理ニ通ゼズ、又ハ結黨シテ財
 主ニ逼ル等ノコナクバ、其費用スルモ支障ナ
 キ金額ヲ悉シテ、勞銀ニ充テシムルコト能ハ
 ザルコトアリ、

第十一章

可當勞銀元手ハ、產物ハ、多寡ニ由テ増減ス、

若シ產物増益スレバ、可當勞銀元手モ隨ヒテ増益シ、產物減少スレバ、又隨ヒテ減少スル者ナリ、
○夫レ勞銀元手ハ、財主、其財本ノ中ヨリ勞動ノ報酬ニ充テント欲スル所ノ額數ヨリ多キヲナシ、若シ之レニ超レバ、財主、復タ其財本ヲ其事ニ用井ザレバナリ、然レモ、財主ノ費シタル勞銀ハ、產物ヲ賣リ、以テ之ヲ償フ者ナルニヨリ、產物ノ

價愈貴トケレバ、財主ハ、愈多ク勞銀ヲ出シテ勞動ニ酬フベシ、故ニ產物ノ價愈増加スレバ、可當勞銀元手ハ、愈増加シ、若シ其價愈減少スレバ、其元手モ愈減少スベシ、譬ヘバ、小刀ノ製造家アリ、工人ヲ雇ヒテ、其勞銀一圓ヲ與フ、此工人一日ニ就テ、每一個一圓ニ價スベキ小刀二個ヲ作レリ、其價ハ即チ二圓ナリ、若シ工人更ニ能ク勉強注意シテ、日々二圓五十錢ノ小刀ヲ造リ出セバ、其價ノ前日ヨリ多キヲ以テ、財主ハ、更ニ勞銀ヲ加ヘテ其勞ニ酬フベシ、然レモ、若シ怠リテ心ヲ作

工ニ留メズ、且ツ日々造リ出ス所ノ小刀、其價僅
ニ一圓五十錢ニ止マレバ、雇主ハ、前日ノ如ク其
勞銀ヲ與フルコトヲ甘ンゼズ、却テ之ヲ減ズベレ、
是故ニ、可當勞銀元手ハ、產物ハ多寡ニ由リテ増
減スト云フ、

第十二章

實算勞銀元手ハ、増減ハ、需要
供給ノ第一則ニ隨ヒテ變ズ、
勞銀ハ、勞動ニ酬フル代價ナリ、凡ソ代價ハ、需要
ト供給ノ多寡ニ關カルモノニレテ、需要供給ニ

過レバ、其價隨ヒテ騰貴シ、供給需要ニ過レバ、其
價隨ヒテ低下スルコト、既ニ第六章ニ述ベタル
ガ如シ、今夫レ、世間ニ其蓄財ヲ以テ、雇傭ヲ役セ
ント欲スルモノアルハ、即チ勞動ノ需要ニレテ、
男女老少カヲ致シ、以テ口糧ヲ得ント欲スルモ
ノアルハ、是レ勞動ノ供給ナリ、而レテ勞銀ノ高
低ハ、專ラ此需要ト供給ノ多寡ニ關係スルモノ
ナリ、

若レ財本匱少ニレテ、勞動ヲ致ス者數多ナレバ
募ル所ノ勞銀低レト雖、皆相競ヒテ雇役セラ

レンヲ求メ、徒ラニ坐食センヨリハ、僅少ナル
 勞銀ニテモ厭ハザルベシ、故ニ勞銀ハ自ラ低下
 ス、若シ或ハ財本餘リアリテ、勞動ヲ致ス者少ナ
 ケレバ、財主相競ヒテ雇役センヲ求メ、徒ラニ
 財本ヲ有タンヨリハ、勞銀高シト雖、コレガタ
 メニ費用スバシ、故ニ勞銀ハ自ラ騰貴ス、
 工人職事ニ練熟シ、其品行モ正シクシテ、信任ス
 スルニ足ルベケレバ、其勞銀必ズ貴トシ、是レ他
 ナシ、此ノ如キモノハ、其需要ノ多キコト、供給ニ
 過レバナリ、

曾テ加拿他ニ於テ、グラントロシクナル鐵道
 ヲ築造セシトキ、泥エヲ英吉利ヨリ招キタリ、此
 工人ハ、英吉利ニ於テハ一日ノ勞銀五レハリシ
 グニ^一ニ^二三^三錢ニ當ル^四ハ我ナリレガ、加拿他ニテハ一
 日七^五シルリシグ半ヲ得タリ、而レテ工人活計ノ
 費銀、加拿他ニ在ルモ猶ホ英吉利ニ於ルト差異
 アルコトナシ、然ルニ、其勞銀ノ英吉利ニ於ルヨ
 リ、ニシルリシグ半高カリシハ、其故他ハ、加拿
 他ニ於テハ、泥工ノ需要多キヲ供給ニ過ギシヲ
 以テナリ、

是故ニ、實算勞銀元手ノ増減ハ、需要供給ハ第一
則ニ隨ヒテ變ズト云フ、

第十三章

職業ハ好ハベキハ勞銀低ク、
厭ハベキハ勞銀高シ、
職業ハ學ビ易キハ勞銀低ク、
學ビ難キハ勞銀高シ、
職業ハ定リアルハ勞銀低ク、
定リナキハ勞銀高シ、
人ノ職業ヲ擇ムヤ、或ハ快適ノ事ヲ好ミ、或ハ學

ビ易キ事ヲ取リ、或ハ其閑劇一定ナルヲ好ム
ハ必然ニシテ、斯ル職業ハ、其勞動ノ供給多ク、若
シ之ニ反シテ、或ハ厭フベク、或ハ學ビ難ク、或ハ
定リナキ者ハ、其供給必ズ少ナシ、故ニ其供給ハ
需要ニ應ズルニ足ラズシテ、勞銀モ亦隨ヒテ高
シ、
〔第十二章ヲ見ヨ〕譬ヘバ、掃街者ハ、其動作厭フ
ベキニ由リテ其勞銀高ク、彫刻師ハ、刻苦シテ其
業ヲ學ビ得タルニ由リテ、其勞銀亦高シ、此外鉛
工、鉛管ヲ製スハ職工ノ如キハ、閑忙一ナラズシテ、其動作
定リナキガ故ニ、其勞銀高キ者ナリトス、

是故ニ、職業ハ好ムベキハ勞銀低ク厭フベキハ
勞銀高シ、職業ハ學ビ易キハ勞銀低ク、學ビ難キ
ハ勞銀高シ、職業ハ定リアルハ勞銀低ク、定リナ
キハ勞銀高シト云フ、

第十四章

傭工ノ數ニテ勞銀元手ヲ除
セバ、即チ勞銀ノ平均數ヲ得、

日々五十人ヲ雇ヒテ、其勞銀一百圓ヲ與フンバ、
平均二圓ノ勞銀ニシテ、其二圓ハ即チ傭工ノ數
〔五十〕ニテ、勞銀元手〔百圓〕ヲ除シテ得タル所ノ商

ナリ、然レバ、一個ノ財主ノ勞銀元手ナルモ、或ハ
一國ノ勞銀元手ナルモ、若クハ日給或ハ年給ナ
ルモ、又數十圓ナラズレテ、數千萬圓ナルモ、或ハ
數十人ナラズレテ、數千萬人ノ傭工ナルモ、勞銀
ノ平均額ヲ得ルノ方法ハ、猶ホ差異アルヲナレ、
實算勞銀元手ハ、傭工ニ與フベキ實額ナルガ故
ニ、〔釋義第九ヲ見ヨ〕各傭工ニ與ヘタル勞銀ノ平
均額ハ、傭工ノ全數ニテ全勞銀元手ヲ除シ、以テ
其得タル所ノ數ニ等シカラザルヲ得ズ、
是故ニ、傭工ノ數ニテ勞銀元手ヲ除セバ、即チ勞

銀ハ平均數ヲ得ルト云フ

第十五章

買取スルカハ比較セバ勞

銀ハ高低ヲ辨識シ得ベシ

爰ニ甲乙ノ傭工アリテ、甲ノ勞銀乙ノ勞銀ヨリ

モ多ク物貨ヲ買ヒ得レバ、甲ノ勞銀ハ乙ノ勞銀

ヨリ高キナリ、譬ヘバ、甲ハ新約克ニ於テ一日三

圓ヲ得乙ハカリヲルニヤニ於テ四圓ヲ得ニニ、

カリヲルニヤニ於ル衣食住ノ費銀ハ、其高キヲ

新約克ノ二倍ナリトスレバ、カリヲルニヤニテ

率ムネ價六圓ノ物ヲ、新約克ニテハ三圓ニテ買

ヒ得ベシ、故ニ乙ノ一日半^{此勞銀ニテ買ヒ得ベ}

キ物ヲ、甲ハ一日ニテ買フヲ得、然ル時ハ、甲ノ得

ル所、乙ヨリ少キヲ一日一圓ナレバ、乙ニ比スレ

バ、其勞銀ハ高キナリ、

又英吉利ノ木エナル甲ハ、英吉利ニ於テ一日一

圓ヲ得、亞米利加ノ木エナル乙ハ、亞米利加ニ於

テ一日二圓ヲ得、而シテ衣服^{此トツベシ}一具ノ價英吉利ニ

テハ六圓、亞米利加ニテハ十五圓ナリト定メニ

ニ、若シ之ヲ買フノ上ヨリ計算スレバ、甲ノ勞銀

ハ乙ノ勞銀ヨリ高カシ、即チ甲ハ、唯六日ノ勞ヲ致シテ一具ノ衣服ヲ得ベケレバ、乙ハ、七日半ノ勞ヲ致サレバ之ヲ得ベカラズ、其他英吉利ニテ必用ナル物貨ノ價、總テ衣服ノ如ク廉下ナレバ、甲ノ勞銀ハ、獨リ貨幣ヲ以テ算スルノ外、他ノ百事ニ於テ乙ノ勞銀ヨリ高キナリ、勞銀ヲ比較スルニハ、先ツ傭工ノ勞銀幾許ト、其勞銀モテ幾許ノ物ヲ買ヒ得ベキトヲ知ラザルベカラズ、凡ソ勞銀ノ多寡ニ拘ハラズ、其勞銀モテ多ク物ヲ買ヒ得ル者ハ、其實高キ勞銀ヲ得ル者ナリ、

是故ニ、買取スルカヲ比較セバ、勞銀ノ高低ヲ辨識シ得ベシト云フ、

第十六章

勞銀元手ヲ増加シ、或ハ傭工ヲ減ズルニアラザレバ、勞銀ヲシテ貴カラシムルヲ得ズ、

勞銀ノ平均數ハ、傭工ノ數ニテ、實算勞銀元手ヲ除シテ、得タル所ノ商ナリ、第九章ヲ見ヨ、然レハ、其商平均額ヲ増サントスレバ、其分子勞銀元手ヲ増スカ、或ハ分母傭工數ヲ減ズルニ非ザレバ能ハズ、

而シテ分子ノ額數ヲ増スニ四様アリ、左ノ如シ、
第一、若シ、可當勞銀元手ト、實算勞銀元手ト、其
額數相同ジキ時、傭工勉強ヲ加フレバ、其造り出
ス所ノ產物ヲ増加スルヲ得ベシ、產物増加スレ
バ、可當勞銀元手モ亦多キヲ得ベシ、釋義第九ヲ
參考スベシ
可當勞銀元手多キヲ得レバ、傭工、勞銀ノ増加ヲ
雇主ニ勸メ、或ハ結黨シテ之ニ迫ルヲ得ベシ、譬
ハバ、農夫アリ、其傭工ノ勞ニ酬フルニ、年々收穫
ノ十分ノ四ヲ分ツベシ、之ヲ價銀ニシテ、收穫一
百圓ナレバ、傭工ノ得ル所ハ四十圓ナリトス、而

シテ、若シ其價二百圓ニ登ル時ハ、農夫ノ可當勞
銀元手ハ八十圓ニ上ラン、然ラバ、傭工ハ、農夫ニ
向ヒ、其増シタル利潤ノ分配ヲ請フベキ理アリ、
然ルニ、此ニ至リテ、雇主尚ホ之ヲ肯ンゼザレバ、
傭工ハ雇主ノ爲メニ勞動スルヲ拒ミ、且ツ強
迫シテ可ナリ、但シ此時別ニ傭工アリテ低キ勞
銀ニテ勞ヲ致サンコトヲ甘ンゼバ、強迫ノ術ニ出
ヅルヲ得ズ、故ニ此一策ハ第十九章ニ述ベタル
ガ如ク、傭工ニ在リテ頗ブル危シトス、
第二、若シ可當勞銀元手ノ額多クシテ、實算勞

銀元手ノ額少ナキ時ハ、傭工ハ或ハ懇請シ、或ハ強迫シテ、其額ヲシテ相齊シカラシムルヲ得ベシ、

第三、傭工ノ買フベキ物價ヲシテ廉下ナラシムルヲ得レバ〔第五章ヲ見ヨ〕實算勞銀元手、可當勞銀元手、共ニ増加スルヲ得ベシ、
第四、若シ傭工或ハ何人ニ論ナク、無用ノ消費ヲ戒メテ、其得益ヲ蓄フレバ、即チ國ノ富ヲ増加スルヲ以テ、財本及ビ勞銀モ亦隨ヒテ増加スベシ、概算スルニ、其蓄ヘタル得益ヲ以テ、之ヲ銀行

ニ寄托シ、而シテ財本ヲ要スル人ニ之ヲ貸シ與フルトキハ、凡ソ一千圓毎ニ一人ノ傭工ヲ増殖スルヲ得ベシト云フ、

之ヲ要スルニ分子實算勞銀ヲ増スハ、分母傭工ノ數ヲ減ズルヨリ最モ勝レル者ニシテ、分母ヲ減ズルハ、必ズシモ常ニ商ヲ増サズ、何トナレバ、分母ノ減ズルニ隨ヒ、分子モ亦減ズルヲアレバナリ、譬ヘバ、勞銀元手十圓アリテ、之ヲ傭工五人ニ分チシトキ、若シ此中一人死去スルカ、或ハ懶惰ニテ缺負スレバ、其元手十圓ノ中、二圓ハ勞銀元手ノ中

ヨリ減じ、四人ノ勞銀ハ、猶ホ前日ニ等シキコト
アルベシ、即チ五人ニテ十圓ヲ得ルトキハ、每一
人二圓ナリシニ、今四人ニテ八圓ヲ得レバ、同じ
ク每一人二圓ナルノミ、
此傭工ノ數ノ減少シタルガ爲メニ、勞銀ノ増サ
バル所以ニツアリ、左ノ如シ、

第一、財本ハ、勞動ノ援助アラザレバ、一物ヲモ
造リ出スヲ能ハズ、第一章ヲ見ヨ、故ニ勞動減少
スレバ、產物ヲ造リ出スガ爲メニ、其財本大ニ餘
分ヲ生ズベキニ由リ、財本モ亦減少スベク、財本

既ニ減ズレバ、勞銀元手モ亦隨ヒテ減ゼザルヲ
得ズ、然ルニ、此分子ノ減少、獨リ分母ノ減少ト相
平均スルニ止ラズ、時ニ或ハ之ニ超ルコトアリ、
若シ、其相平均スルニ止マル時ハ、上ニ例スルガ
如ク、勞銀ハ、依然トシテ變ゼザルベシト雖モ、或
ハ其減少之ニ超ルコトアレバ、勞銀ハ却テ低下
スベシ、即チ五人ノ中一人缺員スルトキ、勞銀元
手減ジテ七圓トナラバ、一人ノ得ル所、一圓七十
五錢ナルベシ、且ツ勞動減ズレバ、物貨ノ造出少
ナク、其價モ亦隨ヒテ騰貴スベシ、然レバ、總テ之

ヲ買フ者ノ勞銀ハ、又低下スルノ理アリ、第十五章ヲ見ヨ

第二、若シ人其勞動ヲ廢シテ、他ニ作エヲナサ
レバ、其人ノ消費ハ、總テ無用ノ消費ナリ、即チ
全國ノ費用ニテ養ハル、所ノ游手ニシテ、此費
用ノ關係ハ、總テ勞ヲ致シテ勞銀ヲ得ル者ニモ
及ブベキハ、固ヨリ言フヲ待タズ、此ニ至レバ
全國ノ富ヲ減ズベシ、富減ズレバ、財本減ジ、財本
減ズレバ、勞銀減ズ、是レ理ノ常ナリ、故ニ此時ニ
方リテ、分子ノ減ズルト共ニ分母モ亦減シ、以テ

其商ノ多キヲ致スヲ得ズ

故ニ傭工ノ數ヲ減ジテ、高キ勞銀ヲ得ント欲ス
ルハ、縱令策ノ行ハル、ヒ、一時其効ヲ得ルニ過
ギズ、若シ其害ヲ數フレバ、物貨ノ供給ヲ減ジ、且
ツ之ガ爲メニ其價ヲ騰貴セシメテ、總テ之ヲ買
フ者ノ勞銀ヲシテ低下セシムルノ害アリ、又財
本ヲ減ズルニ因リテ、合セテ勞銀元手ヲ減ズル
ノ害アリ、又國中ニ遊手浮食ノ民ヲ多クシテ、其
富ヲ減ジ、隨ヒテ其勞銀元手ヲ減ズルノ害アリ、
○然レモ傭工ノ數ヲ減シテ、決シテ勞銀ノ騰貴

ヲ得ベカラズト云フニハアラズ、即チ國中ニ於
テ木工ノ一半死去シ、或ハ他國ニ移住スレバ、此
ニ由リテ、或ハ少ク財本ヲ減ズルモ、其餘一半
ノ木工ノ勞銀ハ、必ズ騰貴スベシ、但シ右財本ノ少
シク減ジタル故ヲ以テ、其二倍ニ至ラズト云フ
ノミ、
是故ニ、勞銀元手ヲ増加シ、或ハ傭工ヲ減ズルニ
ハ、ラザレハ、勞銀ヲシテ貴カラシムルヲ得ズト
云フ、

初學經濟論卷一終